

災害医療歯科学入門（山田良広）

Introduction to Disaster Relief Medicine/Dentistry (Yoshihiro Yamada)

キーワード

- ① 災害医療
- ② 災害歯科医療
- ③ 横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センター
- ④ 口腔衛生・保存・補綴治療
- ⑤ 身元確認

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

授業概要

歯科における災害医療と身元確認の重要性について理解する。災害医療では、歯科医師としての災害の種類と時系列における対処法。横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センターとしての対処法や地元自治体との連携などの一般論と実践的な各論を理解する。身元確認では、法医学総論及び身元確認作業の方法を理解する。

授業科目の学修目標

災害医療では、災害総論と地元自治体との連携、災害歯科医療では、急性症状に対する救急処置や即時義歯の作製法、アフターケア等の歯科処置の説明など実践的な内容を学修する。身元確認では、個人識別の意義、さらにその方法、特に歯の所見採取とデンタルチャートの記載法、歯からの年齢推定法やDNA鑑定法を学修する。

授業計画

- ① 災害医療における日本歯科医師会（JDATを含む）の取り組みと法歯科医学会の役割りを解説する。10コマ 山田良広 2コマ長谷川巖
- ② 日本法医学会・日本法歯科医学会における倫理規定を解説する。4コマ 山田良広
- ③ 災害と行政システムを解説する。8コマ 槻木恵一
- ④ 災害時の口腔衛生を解説する。2コマ 川村和章
- ⑤ 災害時の保存治療を解説する。2コマ 二瓶智太郎
- ⑥ 災害時の補綴治療を解説する。2コマ 星憲幸

教科書および参考書

1. 法歯科医学（第2版）、高橋雅典監修・山田良広他編、永末書店
2. 臨床各論の教科書

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

災害医療歯科学は、行政との係りなど社会のしくみを理解しておくことを前提に、基本的な歯科治療を完全に修得した後の応用歯学である。法医学においては解剖を通して法医実務経験を修得するため、遺体への尊厳を忘れない。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 災害医療に歯科法医学が含まれる意義を理解し、身元確認作業を実践できる。
- ② 法医学・歯科法歯学領域における倫理規定を理解し応用することができる。
- ③ 災害医療歯科学の基本を理解し、行政システムとの連携を説明できる。
- ④ 災害時の歯科治療の特殊性を理解し、通常の口腔衛生管理を応用できる。
- ⑤ 災害時の歯科治療の特殊性を理解し、通常の保存治療を応用できる。
- ⑥ 災害時の歯科治療の特殊性を理解し、通常の補綴治療を応用できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回 40%
- ・レポートは、総論各論の6項目について課題を提出する。5%×6回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

災害医療歯科学入門の達成レベルは60%以上とする。特に、臨床・法医学の理解に関しては100%を求める。